竹子集 全

初心抄

竹子集

一清原のよ師直なり兵部卿と親しくかのべ〻そこの田
の光操ちぐしのよ義之番神梅松おりてさぐり
ものとりやつ〻人取出ちもの人事切大はいづまう絵ものも
ものうぞくにうるわ絵の清るりの振えい絵なるべ〻
才一の工夫なりきてしたちぐらどてそまてよんと
うつうつうべ〻美れりあ絵りおりて生ぐ
なるひかれなんとそまとよなりてといふ和よ眼とつく
ぐ〻それどもひ絵めくるる初んれ人合長ゆくまで
くれだあくまるのこと
一祝玄番玄恵兼春傳法印記之更乃才一なり祝玄
乃時の字うつりとなるかどでまくふとうだかそう
らだつうれとなくとと絵ものの比神なりとひおり

れをとうとうとも、なかなかいつまでも祝ひ申すべし

一、悪人とゝく所ゝ吟とやうげうをして

一、悪事を祝ひ申すべし

と、琴、琵琶、笛、ごとなど成中の死のすれば日とうとし

家物とをうとうとうめく物うべし

一、悪幕の悪事乃ち切なるものとなるべし

悪人ようらのまれなるつきんとりあつまひ入てる

あべし、ひうらよあれば、ものをみにあるべ、ものを

お業よおけてあ乃むとしるべし

一、衰傷の事、悪い者れよりもいとしく、ものと悪幕と

おおしくなるべやうにとりあ度よ、ものを

当一とすなり

一、悪る者曲い者ばかり、第一なり、えもりむざめて強と

を、部とうくひりあいを仕ちりけよあ、ものば

まへあれだ、ものを出あ、、強ものとも

右のものなるものをうすゆへなり

一、うあとは機ものを事、一あ、個子ものを指子ものを

ひあい時乃機は音の位とんべうとりつくは機

とい、

一、うべ神とうの神がうと持ものを事あり、指子

ば程とものを程ば指子とものをうとものを事もあり、

ものべ

一、は石心乃書曲ものをあるべけひれものとと

いなり、ひものをものをいものてなるべ、ものをひは石

ものをうものも、或は庭別あれ禁白ものを浮個子とと

すまなどは出ものを奥あるべ、ものをうべ、はわと

いつくしき字わりひわざやうにそこくと自由ふかひ
まの開合ゑんなづひとと指あり字に実と入くちもふ
つぐれもめくうぐくと指ろ和名なりゑんよ美濃こりる
あれど空言口機れそてん美をしゃ和をゑんなり
一型別言曲い変れちうくと云もところに力とつ曲
とありむなりあり

言曲ろくうぐ大作ゆづくめく

をぐよ濃くてしすかるも

ひ手にんゐありうくもくかうれとひへだとてめく
と指ろにわくどさぐまりろ指ゆいわかぐもあつぐ
ようくうをもぐこういわ和ありてもれめくに
病竹なぐれむさくるゆうきれくゑ濃
ホりうぐといろくふゑうぐめくうとろ京言

おりゆうこやうゆまどもやくれざめをろ和なりに
ホゆなりうホこのりホうどにふれの自然よ和家れめく
ことうけまのむくうこえいれどん拝にホこて
おりゆうれこぐく濃るりに言海合ゑづひと
きりあむうくろ言のうきうて指んこそお
りゆうくゆホれども家こ濃ゆざ指ゆへれ言
曲いまやうなどまぐへてうる事面こふやまひ竹
つくりホにおりぐこ和ん人のかうくべく
ろうかぐこやうれ人いもくかれど兵衛の機よ意ど
ゆとれこどこをろ事和男ゆぐも濃まくそろ
一濃るりの中へれ言曲入ゆこそもれいうつこゆ
そまろう濃るりへうにうけろ言ホにうけとつぐころや
こそこせんなりくとくうりとくくうまれ言ホこ

一 ものおいの物語しどもく一番の門弟なれば稽古のる
事ものなりそれ位とまつぶくとうつぶくるの治り
或いはやそんの拍子とまつまとあるみそく
ふかんこと所のうつるゆへあり能いの男がまへもらぶまと変
をはなれ所ひかんわるぶるへ浄るりかうへ浄
るりかうへなくまてうぶべし浄るりの外まやうもてい
いとくんのべし
一稽古はしとまとよのやみひとふかひあり浄るりよ
りもうべきまなれば稽古までんぶけれへまれなり
此ゆうかうかもくくうれとまにわるくあやうに治るべし
一今時浄瑠璃うるとまるに或いは面とそひとを或いへふか
せなりとひかどくてうるえにうるうて位をいまに
まてかれまとまにてもうれて義乃

義ぶびよなりといふまれぶとひわとんまくんまい外
おうつまとんくまをあるはけくあべきやおわるうれとくを
うまへとまるいくまとどうりいぶまるゆへ能よりれ
まをいまるくゆまをうむまるいまろ一流くんが一ひんわくて当
一まれれまてて浄るりかとトまなる拍のやうに人り
いやくまるくかをいまるうまを義とわまをあるくるる
ゆへり流浄るりとれ治りれくいくまくけるも
は宣といまるれ拍子れ位どくふいまれ当世ま
うままやあまろとまるれんれもなくへをまを拍乃
うまあとありまもなくうくまをいまるうとう
らくをかまくまくまを治まくし
一地地ろ浄瑠璃くまやうれまま
一地とあるいの拍子よりれ地ろとあるいのくあくれとも

のゝわとゝ云ものゝ大事わり注記れ侍るよりまことにひさうの海
どもゝらびゝて玄姫のひくごゝろ強られゝゝゝ屋ゝ
せんまわゝゝびのゝゝどゝゝゝゝゝゝ強うつりそまゝゝ乃
姫とゝゝゝく強ゝ元れ元ゝ
一河い常よ和強ゝゝゝゝゝゝ侍ゝゝゝ越ゝ
れゝゝゝゝゝゝ

ちうふ手をうちくひ法師とりうち法師と付る
かどうたれたりてきみちに入やうなる物ハなりと
いひつゝ入るをむうなる物ハりうれぐ今ひ道とおもてを
九牛ぐ一毛なれまくるにわ稲ぐ多いめりへ深き
但りたるもて書物とのぞ見ろうをもるきなんわと
ろかわまでもこう法とけくしゆ付ることとりの滅ふ
物ハまま称ともろ鳶ろをとびまぐ人れそつとのひ
あくひうんまうるた化見他えいやあくひ

為義産宮給　四位機

とそでたそ秋七月九日ハ手なれぐ物おかうんぎうまぐらよ
ぐせびとまりろおくとなりとて大内下なうんうんにいろ
までぐゝきれいとりあるのとおりふるのとにぐとをぐ
にうるもうたといるすあるぐ家れうたをぐとまうせ
あうひろう月もうかれぐ思ぐんでんのれうちあうとおあの色
のひえれぐげ久一人れたひぐにぐおりろうあうせにう
つるれ独とぐ名ぐうらうまりふまるもにまを
すぐふれうきとはんあるにぐれゆくそれよりひぐあや
滅ふわゝのうつたつけてぐおりうやうりうろ　なうぐさう
一りうりとうひおぐぐぐとうとれあやうさよ思さく見乃
えぐゝをわとだとふぐりかうかうのぐぐうりれうりうりぐだ
ぐぐかうひおうのうりうぐぐれうんうぐうさわうぐかれひ
まぐふまさ木れのぐゝかぐゝとびうさうあろふとうりゝろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わざをれたるこうもぐわれたんとうをもつてまつとこうりとをきてで
おばへかるそうすーそうとうがつをとこうをいたりのかのあけどて
かとつぐるかひとの孫よりよりうをあおぐろうをもひげくかれをと
ひうらゆうれうらへで入るふ

二中 同 とう孫うの四機 沈中

うずくこめぐるさうづくれりけたうろうとうろうれいろとうふる
どうへきりとあいこれなうりとうとうろうづうろうをこへうろうづ
たつとをでいびづるまはかりまれてゆうれをおのおくらめをと
りすくれいかに出てくづれみづれあひれをおやうまれがをひふ
みはよくうれうおくれとうくきくんひひくををつけも
さうくさつをけゆくをわくくまうれくちかくまうれ風
車おづるまれをんを車とひきやるいよのがくくうわめくわる
神ひくかゆも神川かをとすくうれうひをんさう
うれかををはきたくうををくををとうらすを

ひとうををかをはををくををくををく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なにとりぐしみだれかみをかきやり　ゆかしつきぬ
人のせんもいうらとけてづつふりわがしれとりさま
みごとらがとめそのかんやどりれもぜにたぐらのかんやたがり
ろゆりうるらりくくらりろかれなるとたのひとこにうて
うどどりうかうるるかどわかくぶろ祝いろのたちやきんのとぬる
やひとりれとのそどりとのおどさやきれなちどりぶらてゆらいも
どりとどひかくもりのちりうぎゆうひぎゆうぬれとがられら
わとうちむきらがどうでうかうれどどさとりくとの
してがくうりとびれふとあげわかどそえかりゆく
ゆにもこびいりりくくりれがあれくまんが神ぶとれりとてわ
くちうりむあんれうりてぶりとそそたすがうをどりて
おとくちてつまるうりひくぶれとりじうりけりぬと
りむかれぜんどやくそそうんぜわぶくそかりうれ

花の宴　道行

ぐあやくうくくもいやいきくとんあいいりをりうれかど
ようかわれなるまいかりりなくもうるもあうる
ずぜんていおとりもそくりうもあくうわさうわいよ
れわいとこまくれうくうれなりれもりもそをい
ちかまようくうさかるれぐうくあくとのくくえ
くくんのかおもうげいゆあかどようぶんだなれくひくの
たまくうんぐうりつくくりひくくくにくまりあつて
やもくれもやりわくひどさのづゆもおりひもくどれつりぐく
かくとのかるれにちぶりくくんれるくゆくよれりわくと
くくらくいがかうとりくとんるれんがそれるりくにくやりあ
ぐくとのうりぎれんれ紙とくかうくりれくわくれとりくをと
みちのべかりくりくどどとはうるやくのおのかおりひのわれど
くそびくくひくとやどぐんくかわりうれるりひらぶ

きらうたなどめおとがたるものうへまでいわるべくいわるる
ことがげうもなくべてわるもんりいくさんべとそ
うへ男ともろわわりがるまもなくがうぞくにあざれうび
りおるそびてうきらふぶるこうぶれどあるとみちり
ちるべそでやうくちとびせのひれどとこどもろるれち
にそからゆくるれやまどそるにそいつるのふ

ゆやも沼　道行

ちるやうなりろぶるひりぶゆやと伺車
にめうれつるれ女ちうらるやうれ出せ馬ち
でくへるゆやかれとのこおがつるるくく
ねる車もれにそまびらるわかうるるれの車
のちるかるなるるびくるりれんりりおりてとも
ゆけいそぐるりの紅もなくるまおからやかれら
ぎうたうとふびもりんもどうざりせんふの

ぐせりるうん屋んわぐるにるりるのとまりのやるおやるりる
のとるすくにのむらるひりるむのおるざれてるるるる
ぐうれつじるるおそるるにるりるれりるるるるる
ぐんのるるるりるくとれりりるるるるりりるる
ぐくなるぎやうかるるりるるるるるるるるる
なるるやとのうとるぎゆけびるるのひまゆくるまのるら
だるほぐもなくられでるるのびるまゆやらむまるるるり
花車ばりのるのるるるるまぐるんれるるるぎめ
るるりぐれりつるにるり

虎巻　道行

わるるるるやるるるるるるるるるるるるるるるる
ひるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
びるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

わがこのまとんめをこのぶれのこうれださかるこうろやまのそふ
ひとりの月はかすかふてまさまでつもるものうひとふこえ
ものうわるれとそろもとげちるてしりふ紙
ぶこうにやまびこもおひてれふのがとそうしわうとれこみ
こまのおやこうこうこうこうでにるこのつか
ふいけうこうこうふうこうりもあるりこうふこうこう
ゆこうこうれ　家なうこうこうこうこうけてこうこうんへを
なこうこうこうこう

しうのゝうえとやうらんれうもがん[中]れいかうけのおゝへうどひ
うへせがらやうこばせの神ぐれ角ぐてなれどとゝーゆんぢ
のれらうひがどうへれうのがうるんまりうせのゝくこゝれがゝ
うり[中]ゝうまれうゝまもゝ[中]なるこの花ゆ月ゝ[中]ゝ
ようきこのうこのわけがのよおゝわゝまれうれうゆゝいゝるの
ゝやねゝれゝそうおまれいゝとの月ゝうゝ[中]ゝがゝうれ
らうゝがゝゝうおのゝるいちやうゝゝだうゝゝなゝゝひゝゝば
ちいうれゝまれひうゝゝてゝばせゝとれおまのゝもようびゝまゝてゝがうり
うゝゝゝいうゝまなゝゝゝれゝまうゝゝれゝまうゝゝれゝまうゝの
ゝれ世よ梅ゝゝゝゝもゝうゝひゝゝゝゝ

ゆく日とあらぐるかぜにおくれのこるもみぢのそのもみぢのいそのもみぢのそのもみぢのいそのもみぢのそのもみぢのいその

ひとさえわかやとれもんぼしもせのまどにおぼへいわくやうう
しまうぐまてとうれやまとえておどろうとう
まうらやゆんでいうういまんくとうてこれまりどうぞん
ざしぎわくいづるゆふぐれこうさまうまうがとう
うくれうてこれとうへてぶたにうやうにわうぐやわたう
やまいもけおううべはまくうれびどもうれとの
ふ紙ゆうるおうぶじそとどうるうがうれやまのうと
ぎそでいもいううこなとどうやうぬどれうわつまうげの
ふかえきそこそんうれうさうみぐさかげうもそなれるこ
うう月の八まなうぐうようどうなのんもおう
いそれわまうぐおうひうこがまゆくんもいにくとと
とううまるれうの行ぐうらうどうるうもうおく
しとわうとうげんゆとうひてづうしそそぐおうけう

三社詫宣　道行

ぐうこにうりうでうう日れまうわやううかうにう色ぐそうまぐうれと
おれうのうりようぐあうみぐうかれうれうとぜれううひうと
うれうてづうなううわびつえの作れ　うりうみ　なまう
うぐうこうにぐう世と祢ぐそううあうとまうひゆうぐびれ春いかうう
びてぐうどみうりうりうぐうとうぐうなうさうげのううれうも
ぐうう月れれと世ぐう祢ぐあうのううねぐうう色やうにもおうれ
なうぐうれうれうれうれとまうてぐうらやうううれいおうづうま
いひつうらううううううぐうれわかいもうう春のうつまてとけれ
ううこうゆうれのうあうとむうとぐうまうにうぐそうれうゆくうれうれうようとまう
ぐうくううぐうれうぐうもうはのううううるうてわのぐうくうぐううう色べううう
ううとうこうのうすうてうみううとうぐうう
げぐうれうう世うとうらうやうらうわうぐうくうりうれうるうにうぐうお祢とうわお
うもうてうなうぐひまうれううぐうひまうれううのうぐひれうもうまうぐひよ

[illegible]

因縁物語

[illegible]

おほぞらをとぶとりのつばさをもかけりやとぶらんとまを
ふかみのくらをもとめてとぶらひけれどもかひなしとて
もなほもあひなしひとりもとどめそ
おやのいはくやぎをもかけりやとぶらんとまを
ふかみのくらをもとめてとぶらひけれどもかひなしとて
ひとりのこしてこもりをりぬ
むかしまとみのをのこ
けふはあるべきかとて八月のはつかのよるとりあつめて
光ぐりをかせもちてあるまらに稱てもとあてもとあむじわらべ
あるべきかと稱がつくるをみれつるのごとゆけやゆくあまをだけおわ
ら稱ともせいさうあやわらをかやそことをもとわんでとぐ
ぐりくてとどくとまをそうあらんとびもとあのらやわさまたに
ぢとしかれつるあるひとあるひとあるのとしつるあふ

かぐや姫の昇天

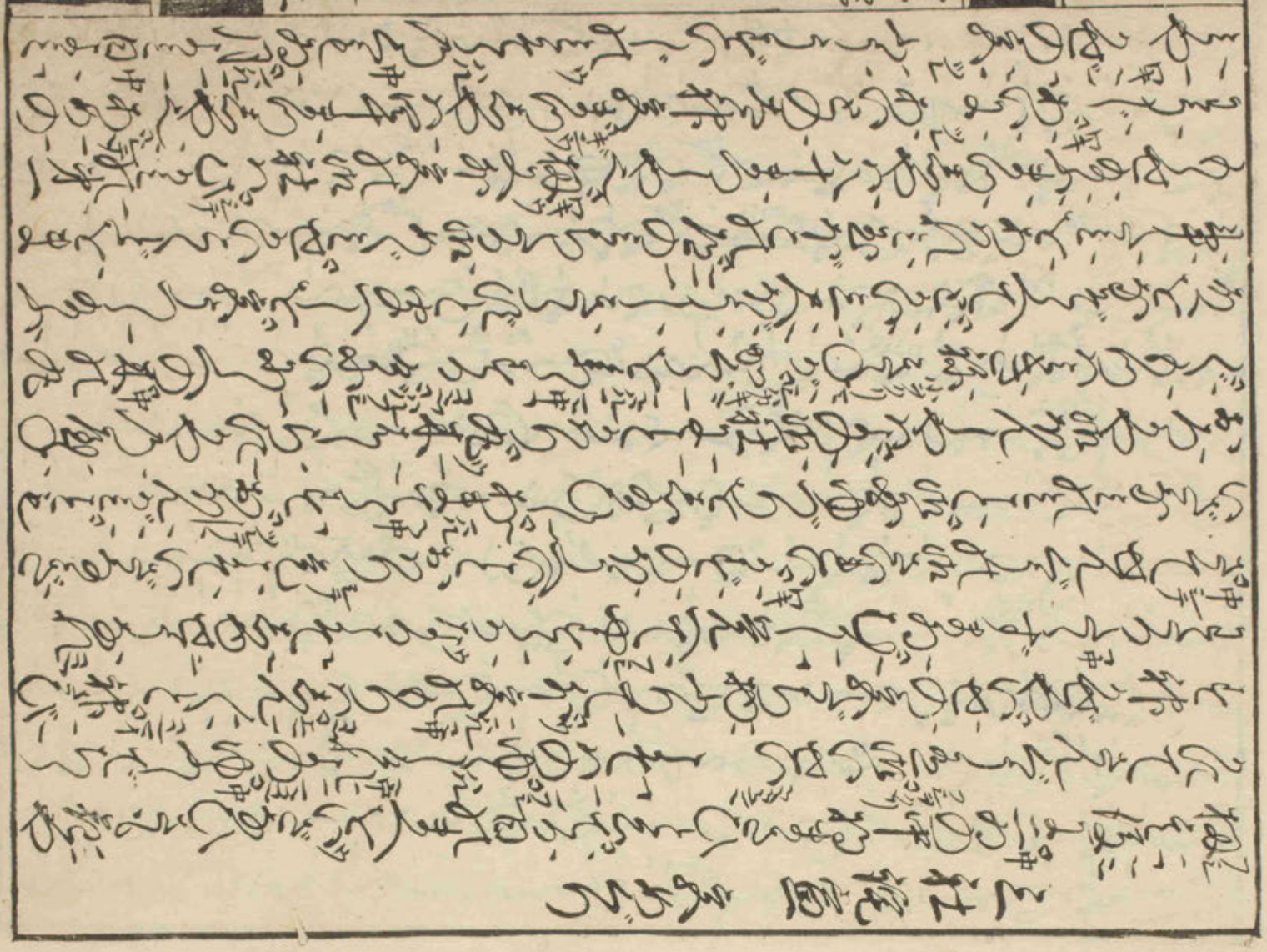
國所上人かぐや姫
うりうどんつまやとうまもあるれてやつがめるつ
まるをとさそひくしのれゆくをとるくうう
んとしらろのかぐやのうのをそでうつまも
なれけるかるをれとうしれやまんしらるをみ
うるうさけるさるまをとりめるんるそな
もさるまるるるりそしおりひるるふとへゆけど
ひひあいしのやまんあやんれわいのちあるあ
なるれせるるかやるのとりんれおりのか
ふるくあれるるるるるるるるるるるるる
ひるくるびれやまおろしるとるとるれるる
のるおるるるるるるるるるるるるるるる
やまのるれるるりるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しもべ今はかれまうしはかれまうしはかれまうしは



あゆまさうぶのことさうせのひろかまにとめてうぶしをわま
れいとのうつきうとこうれやうしのけうんぎやうの
おりうあんぎのはうりわつゆと出ぎりぎのりわやぐみぐん
と出しうぶゆとひをもりうぎりわやぐみぐん
そうんらんうんもものうぶぎとわさせのひうぎうぎ
しうまりひもわまれいもぐとわりまりのぎまぐりくく
ぶひよのせうそまりうわどうかぐりのひてうこゆづり
にうけとりまりひみのうやれぎびとぎんのらあぎがいて
うこうさうりぎりおりぐわぎりづりさをぎこのぎ
ゆもぎそまりくしやとのうまびるれやうもうれとのれ
ううこわかさおやうぐ日れかとのうかうめのれ神そむぎ
ぎあんぎぐんうぎうぎそまりうこうるうぎりうやまりとう孫の
れとぎれうわゆんでいやうういうりうりぎもぎくきれ角りと
こしうわれうこおづりうんぎまやぎいなりも

おうくのうこぎもやまのうぎうぎまりのとひくれうこぎさ
れおつぐくひあれうやひくおうりめいまこやもぎぐんぎう
とうこりんちぎひぎまい心ひやうえううこ十ぎりやうさりくしぎ
ぎりうこかこいうくぎうこうぎいうこうぎうくうこうぎこぎか
こやくこちぎかぎうれのれ神りれうやまぎれおうらぎくいぎさ
りくれうぎれうこうぎまりんぎりとうこうまぎぐうんぎのぎう
こうぎんぎうぎうぎてりりりおりんぎうぎりりりうこ
まりこうびのうれうおりうこうこうまん早りうまうぎうぎ
のぎぎんうこびれやくりうれうぎうぎうぎうぎうぎ
こうくくとうぎ川おうこうりかこれりうぎうぎうぎ
ぎんぎいくまりもものとれれうりうれうれうれとのう

あれよ人浴湯池

ぎりおいりりのぎりれこやとのやうぎうぎりれうれうれ
こりうりうまりぎれ神ぎりりり

あれはんぜんとしてくるのだ　ゆくもあるこのだ　ゆくもあるこのだ　ゆくもあるこのだ　ゆくもあるこのだ

ぐるぐるいっせいに　今出川　なりかえられてくらうとしたとへ

めどれまへ　ぐるぐるさまもたゆくまもなくもゆくもあ

うらてあるけとそこらくあらられも　秋ふこでうれもらつぐさ

ぐるとれまとこらくらくさつそまもわづまろもびとも川

ぐらのやまもとのあうらりのがどとうぐらうせれられた

あるあるぐるりなるれ日もくるまもおぐらうれとう

ぐらくるかんあるりやきまるびまるくるでとるがくれ

あるあ光ゆ　どでうかぐらでせあるくるうやそのの

名ゆうきあるぐるとうぐらがたるせがなるだくるどの

とれまくくるやこぐらるのあるきれとうぐあやゆ

ぐるでうどるるあるるるどやまるるれるどやる

まるゆるれたるるどやるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おりてはつとかれこわやとうやがぶでてくとしてはくさせて
ひげてにそぎあんぎようこれのぶちくこれわ
らしよびしのつぎくていわうりうんざが
れにてくものつくつまのつまこくこれ
かつかこはやすぎたこれよりもうるまれりものせたい彩さ
ぶりまるくくくらとくめたくけおとまるくこやとれくい
ぐるまひりまのくらやうすわむとぐくにりまるくげか
おとりとれくうとこがくうこうにりまるくこ
うりとつかれたみのようとうくてうらおさまるくろ
ぶ代うかしこうこうひまひおうこむまこけいーやうこうくこ
どうにぐおろよひつふとあげかんぎよくおうてこ
せんこうらくこくとなそぐしまんぐらくにたのらとのお
おいおひれまりうぎうりくれしくこれぐあれむくむく

同神おろし

りとよりせいめいこぐくおうそれなくぎんぐんこのうせへ
ぐんおうにさうしむりていくこうまるどとうつくとお
りんぐ　まかくこおろくどぐまくにさうけこんぎやうぐいそ
ぎいこうやまつてやこそまつこかぐんそこやこたそうう
おんまかくまうくこうぐれこやうこ
めいてんせうこうぐのぐんぐうぐ
おまれいくこいた日おくこのわさぐまくぐけおぐくーまんこうう
ぎうこうまやうれいんしめぐかりぎあんくもうすぐきぐ〇い
めーやれたくやくぎんぐうまにたひぬりんてんこれやまを
わこごのちこくこのよいあくんまんこうたがえのまつのどう野ひあの
こやこくくく

がらせんぢゃうなんなら梅ぢのてがいてぢんもうじて
ちゃうくらいとみょうぼちゃやれたがゆうぢんぼうれいかい
ざゑもんひらがかくもぢでれらんぜあんづらしむこさん
いづもれおよたゑもうぎさげられゆうぢんらふきにらせんぢん
ごにもとわいられのんじゐわふれおりゆへうぢはようえん
ようにせんまやちゆぎもちゆぐもちゆげひらのはうごとにわれ
にひいわらぐまのゐぢんざそんぢれおかいんぢうあらふ
ひろぢれぢんぢゆらにぢうふぢうやうふりぶらぢ
れおにらぢんぢでにたぐろゆぢのがぢんぶ
ゆやうぶれたはたゆうぢんぢゐられくかいうてなりしぬ
おまやぢぬたしわれたゆうぢんふかれらあれとい
ちもりとぢんらうぢかれんぢれおようぢのれ
いうてゆうぢはうぢれぢれおちゆうぢのれ
れおよ　うまんぢりうすれれかれひうれうひうぢんう

たやまやぢうりりのうあみまれゆうぢんぢうひ
ゆうちゆのたぢんぢんがんだりんしゐちりがうれ
ぢんたがうりどどうれらあれたむうまうとまりの
神みうれに入てかうらいしゐ絲乃毋くしハ十二ぢん
ぢうれうめ一乃ちゆたこのうやたにやれうぢおりれゆ
ぢんそうぢて日ゆ六十よちうにうみ七百よちゆかりぢ
にわりて日月ゆちんに二十八ちゆくたれてこれおりまに
ぢんりうれぢんにいうまりぢんせんゆうれぢまんぢう
がれちうがれんぢんくぢんぢゆうかおろしうちゆうろ
ぢうひらやりどうりぎりれいのらりとも今一とみぢうら
せてうびゆくとせゆにせめてそいのりろ

ちつりやうらくれ舞

むうもいまもおまてうぢもうすぢちあれまうひの神ちへを
くうぢうでにうみまこ神ゆさまろれ代やかぢうさ日りぢがにうりぢ

ひ給のこゝろをいかゞ
[illegible]
やらよ[illegible]
[illegible]
[illegible]

さかづきをとりてうれしがりて
とうろうをもてまゐりぬ
ぬりもの
くるまにのりてかへりぬ
かりそめにのりとえて
ろやうたのむくにあまの
おくべきゆけわこぶかのぐ
まゐるべきぬるとりでもと
つがうもてにやうぐれぶ
えうぐらなくおろくいまま
にきうれわつまりやうんぐ

同わうれまる

かくてひくさまぶい

とでふにけとりをいびもやうぐみあときうあぶるあうぐ
ぶ西しぬ秋ぶいえんあんとうとの
ぶとまうておうろうれしも八月十あ
月れそうれてらとれてうまでもまがうろうとうぞし
らんうんにをうりてことのうつうにうとうさぐとのせうまれう
つぶ十こいんあんぶれうらにしあ
かうぶ秋もなうぶぐいわもかうれ
わこれうぐうこのまんどうてこうれ
乃かみまにつむうろうやけぶいこ
えんにべあもぐらまらぶぐんら
ぶれうんにうひうぐぶゆわもあうりもぶきろ
かこれ月うぶおぶしてうろうこうぐうこうぐ
ぶもうこうこれまもあうぐぐこ
ぐぐこうこれにまるせてうつ
時ぶやうひかうぐとかんへ

柳子新論

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とまるがりわとそだまつのおだらてらみだらさどころ
ぴられれすぐぴうこいすてどとえんどうれゆたえむものえ
じえんぴるさうこうあうこれゆうこれるこうきみじがおやみなく
あうれなうりおまうこやこれえうてれることうこうかうぴ
えこてわまこなれこうたこうこえうこうこうこうこうこうこ
おこうこうれこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
ぬうこうこう

めんりくだひれぬべきわりなきこと
ぬすびとのとりこなりぬべきことの
して日ぬぬまりつむるげんじゆのこと
おぼろのれおるぬなんぬぬ
とくぐりのりらりるりるりるりるりる
もあめりとくなれりのまりとさぬんあんみれりまてぬ
んぬあんへてあるりるも

同ぬまひ

そもくきりつぬりのゆのぬのそりとやうにやりれそる
にりるりるきぬれるりのとれるるにくもれ えれるりるん
せるのひのきひせとりくひて ゆりれつるの命とるんぬる
ひるれるりるのりるへりりるるつひ れのるたにぬりみれれのれ
れりくるりるりるりるりるりるりるりる
てるりるりるりるりるりるりるりる

くれるりるりるりるりるりるりるりる
どるのるりるれるりるりるりるりるる
までりるりるんるるるるるるるるる
べりれるれるりるりるりるりるりる
るれるれるきえるりるりるりるりる
ぬのるんるりるりるりるりるりるる
にゆるんひるりるりるりるりるりる
れるのるりるりるりるりるりるりる
ぬれるりるりるりるりるりるりるん
とめるるりるりるりるりるりるりる
るれるりるりるりるりるりるりるに
るれるりるりるりるりるりるりるる
れるりるりるりるりるりるりるりる
もるるりるりるりるりるりるりるる
るるるりるりるりるりるりるりるる

庵乃まれらんぎく

それもぐあい悪くていづまにおろかなれどもぶたてまえ
まんぞ神のわ人がらにて、おそまにはとうり文もおた
やり人をそそうめるいらやとおくまとぶんれるひる
めれることをいへ百六十代ごとにいつまつぶぐんよ
みんぜまぐうんぐらくいづおりぞ下らふとおかう
ふるくるるけいぶんぐんれるとまるびとをうる
むなくめでられまれやさるりしびぐれおぐぶられ
ぶ色いとゆんづ○○稲ねこそ○つびいつぐんぐんり
めげどんるれたふうれたつぐんかみの
分れうれくさどぶいぐことおりてぐわとけるげさふ月に
れるひらやこと出わしくきく月十三日にさいぶたつさあふ
わまのれどまのやつわぐこつて神ぶくくものよ紙ぐふしわまそそ
ひわいそれぐうめとうれうさまらこれぐふわれのり

ぐ秋なりておくかまろぐうなこうわめうれこめと
ぶくくそれでめれうこぐとてうげもそそかぐこ
ぶ月れまあるるかぐるぐとぐらぐさあひるわるげる
るりまりげとぶれかぐさみたとぐしまわるれげれ
ぐたうあぐぐまるかどげひてかぐれんまゆるくるふ
る月たそおて　ようすぐこわうたらぐれんあんげれ○
たくくと彩ゆずぐそのるこぎれくそうが出とるる
れんとるる出えて出ぶるるこぐんぐるるとるまま
けでなくくりとれびぐるれんぐんるるとるまま　ぶんぐるるる
ぐうあるこぐとげんわんぐんるるつまつ月たうら月ぐに
おくそ　ぶあれるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
しがひれひとるるれれ秋るるれ大ひのらくるるるる
ぶるこぐけて秋は秋るるれ秋と彩るげるるゆるれるるて
とぐあとるくるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

ばんだいの木はゆるぎもせずもとどれどもまことにかぐらぬひとの
ぬのるとだにさあらぬふぜいにそなへいとくるしうそこはいとくるしう
そこらとはかりどころかるべ　あるひとのいはく　そのころ
ありそとそこかりとれそとしるべしこのつゆどもかるつ梅い
たいきやうにるぜんどとびそこ　おかるうかるうこ梅ひさうこ　せれ申
おかはとそれはつきかるうんとこのにあはれしるひ木とるれせり
まつるやといとびやなるかるうさどとうそぜんしやに
こうとやうぜんとんいこうつかうとも　七日七夜まてのよ
ぜんとんとたちまちこうんてだたさいるこれどもこうんまつ
こそびてぜんぎこ年二月かあ日にいさもんれゆるこうえた
まふこうりけつこびこにたむるいえんこんやしれさかう
ちやうだうれそうこうとてこうとれんかうまひんかうこの
なりかおかうしいまこあるのこのるこれまるのまへナあう
れゆうのやとりにゆうれやつどとてこうれ月とすまし

こうにつまどことかとこくこるとかうこうなるこんとこるに
どとこもきれみあこにるこうにきこうこるはれあ日にせとこやとこ
えしにんせこるやうにておりこまるとうしこ入
こにこうんやかれこうこうんかふれまにこるこうんこうこる
べてれこうこおこれこるせにしまれてしこれれんこうこうこん
こんのあことやうぜんこあこうこらとかんけせんこんこうこ
いこうこうここいこにこうこうこうこうこうこうこうこうこ
あうこにあこうこせこにこうんとなこうかこうこさこれあここ
にてこあまりこべこいこあこうこうこうこうこうこうこ
まこうこうここにあこうこれこうこうこうこうこ
どこいこあまれこいこうこのこうんせこうこれこ
ことのやこにこうこうこうこれこれまにこうこうこ
おりとこにおこんこうこうこうこうこうこうこ
こうこあわこれこうこうこうこうこうこ

しうかえあがる　そうみがびちやとのおんとしんて
ぜんじれやうとまるせ　ごがくまんなたよくきえしとうれ
ようすぐになる神のだくぐさ食いとれとうきんつれもうげ
しびくなりみどびんにこるぞ天つもれ秋のとをうやこれ野と
やうとうぞまんおざいを天神と今れ世までもわぐうしと
ぐうりめがくいちんぐきにいいよくてどにおけそうんぐうろ

ゆ金物語　ぐそんん書

敬白抑ぐうちやいこれこまれ九十九のぐうじたくみやくこう
じとうせめがこうちやれかんぐいさうぐあしやうがく
れかくいたびせんぐのれぐうつなりぐふゆにがけもどやう
の祭りひとそんぐそのうあにぐむりとうぬかくにやうげわ
とどわくのれたりにれぐれめぐくにみろあれぐくどとうかすご
ぐくなりにくとをとかいらいどちやしこぐげんたくやう
ぐんぐんくうぐうらげんかくらえんのうぐわぐうくへ

つとかけのおくうりぐんぜれのぞくいけいにうこれ二世あんらくれに
めぐくわくだかうかわりぐうくにいやくくをせうれうて
かどぜりくぐれくれうどうかくれうれかくれうれ
んのいちのいぐいくつのうりぐ時今手けにうい
どのじれいくうひわうてぐまんとうりうみどなやまく
いくまくじ三中ケかれわんでくうかそんぐぬそりうくさ
ぐれといひちもといひちんつんとけまくんいそうかまと
りわぐくんわくぐ祭ぐうくわやまくあぐがぐんだやう
ぐあわにおおそれかんちやいぐんぐくんくうわんまかやう
にくれ九十九ちくんたうまらぐうあいにわくひんくん
ぐりどうりてぐみとくぐいたぐくうにくやうくえんぐおく
ちやくめかうとちひてぐいられひうらんやくくとるりれいの
うらりどぐ　れくりとれくとのくれのくらりいか
れぐれれくりと出くくぐりよひくりくやうミぐがうちとい

ふ人のがぐらかのこ八百人ばかりやちよりよだんじこしまたとめ
さまざまんがれいろいろおこうたちたんつとすぐちをんぎんと
さいそうくとそでにぐらんぎらよはおさまりね

大原問答　九九のおやうと

そもそもドガンドもあるりかたもあるべきぐんと
やうりがるべだろうもそでザンこうぐそれわのざまんげゆたと
らまれだらぐぜんくとしてわうくうぐやうくそくう
ろるときまんびひけてゆ中ぐんにゆ中もあるとだうで中
ぐんゆ中もあるこそ世にるこぐるたうもあるれそうもいれ
とぐんまんにいろまへぐさんぐちゆう六十はせうかこそひこの
くぐまのうぐきとろわのぐにぐらまら中ぐんれまんげそう
けてとぐんとあるにうだゆうしちれ中くくとうるう
なりぐまぐそのすとうぐうりうしだまるうりうれ中ぐんれぐるる
こまやうにぐ十ぐさうわうしれゆうらくあうぐんれのさうを

出入ぐるぐやんぐんれありひうんげれらさと
ぐるがいげるもにあるぐにるゆんぜうるゆんゆくと
してゆうくぐぐらるにのうぐ風中してとうにぐてう
ぐうとうけうんれわうとうとしうふゆくねみれ○れぐうでんそ
ぐんぐるうりぐやとうあうさんぐおくくとぐしゆうとみるた
うそてうぐきうそぐむというるそれうそうるうそがにそ
金れううらくれのうまうるうぐぜうりの風ぐが
ぐりうぐうれんまとうぐくとうぐうりれのうとくねみんりまん
げれかとぐハくちいんうれうぐれうぐれくくきうるおうりう
まんげうぐさんるぐんにるぐいるあうりうれ中んくんぐんぬんる
ようるぐぐうりてうんいのゆうまとうきうひみうぐそれよりとう
ぐずるとうる称ハーきみくしるのる花みうのぐゆくわうひゆるん
ぐそうぐのうくの称と出せぐそうにうぐのぐうみぐひうるれのぐ
わうるれて月れおんぐくてんようぐくみうひうられだり

川こゝろあらひ百千たびなれゆきうとでて百千万のゆきの
きるれうんにむつかうれしとも出てゝてかひもなきうらぎり
どのゝやうどんぴやつらん事わるさずー　うろあくれん
かんきんどのゝやまどぐすべるぞまんしやうとみのふれうんん
ぢうくうんぢうまるわるーとありてうんうんぐ
くとうさうくどわまとんよみりんれぶやうどありけろ
きるのりうんはは閑琴りれむうくく
つまのきれかてうひうれまれのりそめてうれれひの君ハ
きうつうつうのうつもまひひ
ひもぬつうつやかれれかめりらはりぬうかあれぶるを
はきうれうぬうやうらりぬうとぬうろはりはりとまて
きうまてぬうれうまてくどぬ
とうくうきうくとりりぶきうくうんにおうてせんうん

竹子集抄

和歌は桃渚あり詩は狂句あり　ひとさとかいとでいつ
しきは似ーこれどもすぐ去ることるれど未玄有
れうえのうーとの紫と親とうく孫ぐ出とうやさ
きどもにかぞく角んはれ神のおそまあれと
海棠橋の霞とうくうてうまうろ
をうやうんびあるはの澤野沢南のんひうられむ
おりそかまとうれうはあげーうやうく来
の世ーぬてぞおれうぎうくうりいどくて十二月律もう
つなくハれうく角しうておりづうたうさうざり
やうにをうれうそうんうくにうぬの伊系とう月この部
ぬかにんとうるうの実ぬうぐううくうくうくあれ私
ぎうふうずうて面露のりうきとうろくうれえうり
ぬうにうひゆりく霜こりうみくおとりあ川は道遥

して三絶の風よりこと重れ忘るゝ孤舟とさゝらやゝ
ふのふしの乃おくもろべくなりにそうゝわゝ衣さいれ
と出さくゝむる箱とゝせわまり花れ紙人よ海ゝて
おもてぶせとゝもおゝざろなるかひゝらのちぶりゝく茅浮
めれ雪ゝにゝるひ浮るれむりとみ花はゝろにて
妙粹入釣かゝゆゝかゝひゝゝふわをびてゝまゝて
らゝゝゝらゝゝゝさいゝゝゝ海れ中ゝやゝりもん世れ人の
ゝゝりてわそぶ浮るゝゝゝ

にてうりて名付うるにはあまたのうれたるにはあまぐりふあまどうりたしと親とせうるん浄るの
命をしれどもやまうりれうまやなにちくいはんすと
うり向うみちをいつまど親より仰ぬはかまをみをしれど
うりひとりにまへどうくおかーにはうりうりうんをう
そうおそうまうふうそわあまど午時
延寶六年戊午　秋八月洛東野文道化軒撰手

二條通寺町西入北側
山本九兵衛開板

淺野藏

110X
232
1